

# 2019年度 放課後等デイサービス自己評価の結果をお知らせします

かでる湘南 おひさま

2020年3月

おひさまでは、利用者や保護者により良いサービスの提供を図るために、厚生労働省が定める「児童発達支援ガイドライン」を基にして評価項目を設けて保護者のみなさまに評価をお願いし、その結果をふまえておひさま職員一同で事業所の点検、自己評価を行いました。これからも工夫点を一層活用し、改善点は速やかに取り組んでいきますので、今後とも忌憚のないご意見、ご要望をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

	チェック項目	取り組み状況(工夫している点、改善が必要な点等)
環境・体制整備	1 利用定員が療育室等スペースとの関係で適切であるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者からは、「個別のスペースで区切られ、落ち着いた環境のもとで個別の療育や支援が受けられる、カーペットの広めの共用部分があって体を動かして良い、集中が難しい人向けの部屋があって良い。」などの評価をいただきました。反面、「個室が足りず、パーティションで区切ったスペースでは集中が難しい、可動式の机や椅子の配慮がほしい。」などのご指摘を受けましたので、今後も個々の利用者の特性に配慮して法令にそった物的環境の整備を図っていきます。</li> <li>建物の構造上改善が難しい箇所については、十分認識しています。</li> </ul>
	2 職員の配置数は適切であるか	
	3 おひさま業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	
業務改善	4 「チームおひさま」を合い言葉に管理者、児発管、指導員としての役割を果たし、ほう(報告)れん(連絡)そう(相談)を推進し業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>「管理者、自発管、指導員の業務分担に基づいた取り組みに偏りがあって、業務改善を進めることに支障があった」との振り返りを、次年度の業務改善を図ることにいかしていきます。</li> </ul>
	5 保護者等向け評価表を活用する等により、アンケートを調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者向け自己評価に寄せられたご意見やご要望を検討し、実施に向けて対応しています。</li> </ul>
	6 この自己評価の結果をふまえ、おひさまとして自己評価を行うと共に、その結果による支援の質の評価及び改善の内容をおひさまだよりやホームページ等で公開しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年公開し、今後も月刊「おひさまだより」やホームページ等で公開しています。</li> </ul>
	7 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に続いて、毎月指導員が順番に「実践事例報告会」を実施して、日ごろの療育や支援に役立ててきました。また、療育以外の時間に行っている指導員間の情報交換が、貴重な学び合いの機会となっています。</li> </ul>
適切な支援の提供	8 アセスメントを適切に行い、利用者や保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で放課後等デイサービス計画(個別支援計画)を作成しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>「保護者アンケート」等を活用して、「利用者や保護者の願い」にそった個別支援計画を、半年ごとに見直しを行って作成しています。</li> </ul>
	9 療育や支援の立案を、チームで行っているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の療育や支援のもと、利用者の特性に合わせたプログラムを組んだり、指導員間の情報交換をより密に行ったりすることで、指導員が代わっても療育や支援がスムーズに実施できるよう配慮しています。反面、「チーム」を意図した療育や支援は不十分である」との反省があるため、今後改善を図っていきます。</li> </ul>
	10 療育や支援が固定化しないように工夫しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>「プログラムが固定化しやすい傾向にあるため改善してほしい。」とのご指摘を受けました。そのため、場面の切り替えが難しい場合など、公共交通機関を利用して自己肯定感を育む余暇活動や小集団のリトミックを取り入れた音楽遊び等を設けて療育や支援の充実を図っています。</li> </ul>
	11 利用者の状況に応じて、個別活動と小集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>一対一の個別対応を基本とするため、小集団活動の機会を毎月各一回(リトミックや余暇活動)を設けて他児との人間関係を深めたり、個別療育の充実をはかっています。</li> </ul>
	12 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>一対一の個別の療育や支援のため、療育前後の細かな打合せを必要としますが今年度からその日の予定等の確認と振り返りを行う打合せを行ってきました。今後も、職員間で担当する利用者の療育や支援に関わる内容に至るまで確認する配慮をしていきます。</li> </ul>
	13 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	
	14 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月月末一週間以内をめどにまとめて、療育前後の気づいた点等の情報交換とともに、常時療育や支援の記録をとることで療育や支援の検証・改善に役立てています。</li> </ul>
	15 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回半年ごと実施して、利用者や保護者の願いを反映させています。</li> </ul>
16 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>一対一の個別の療育や支援の中で、指導員が利用者の特性や興味・関心をふまえて活動に取り入れています。</li> </ul>	
関係機関や保護者との連携	17 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画相談を活用する利用者が増えつつありますので、次年度から参画に向けて配慮していきます。</li> </ul>
	18 学校との情報共有(支援シート、個別教育計画等)を適切に行っているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の要請に基づき保育園や幼稚園、学校等との連携が制度化されましたが、活用に至りませんでした。今後も周知を図ることで、情報共有と相互理解に役立てていきます。なお、保護者同意のもと、一部の利用者には学校を訪問して授業参観の後、担任等との情報交換を行いました。</li> </ul>
	19 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	

関係機関や保護者との連携	20	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	・事例がなかったため、実施はできませんでした。次年度に修了者がある場合には、実施に向けて具体策を検討していきます
	21	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	・厚木市療育相談センターの巡回相談やカンファレンスを毎月実施し、療育や支援の充実を図っています。
	22	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	・年数回の厚木市内協議会には参加し、情報交換や研修を図っています。
	23	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	・療育や支援の開始前と終了後に、状況把握と療育や支援の報告の時間を設けて共通理解を図るよう努めています。不十分な点は、今後改善を図っていきます。
	24	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	・特別なプログラムを設けて取り組んでいませんが、送迎時や個別面談を設けて子育てと親育ちを合わせて取り組んでいます。
保護者への説明責任等	25	運営規程、支援の内容、利用者負担等についていねいな説明を行っているか	・サービス利用契約時に、時間をかけていねいに行っています。また、事業所内に常時掲示して閲覧できるようにしています。
	26	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	・春と秋の年2回に「個別相談」の期間を設けたり、要望等に応じて適宜相談を受けたりしました。実施後に内容をまとめて回覧し、常時職員が共有できるように配慮しています。 ・「困ったときなど、相談や助言を受けてありがたいと思っています。」との評価を受けました。
	27	保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	・「おひさまサロン」として以前に開催したが、「仕事等の関係で時間が取れません。」等の理由により参加者がありませんでした。今後、開催時期や方法等を事前調査した上で、開催に向けて検討していきます。
	28	子どもや保護者からの苦情や相談、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	・苦情や相談、申し入れ等については、おひさま事業所内に手順を掲示するなど整備を行って、迅速に対応できる体制はできています。
	29	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	・「おひさまだより」に交代で職員執筆の原稿を掲載して、職員の思いを保護者に伝えたり、活動内容や行事の予定等を知らせたりして発信しています。 ・「活動や行事の予定などの手紙を出しているので満足しています。」との評価を受けています。
	30	個人情報の取扱いに十分注意しているか	・電子データにはパスワードを設定し、個人ファイルを収蔵する書庫には施錠して取り扱いには慎重を期すなど、適宜機会を設けて啓発を行っています。また、多数の目に触れる場合の利用者名の記述は、個人が特定できないように記述を控える、作品の展示には利用者や保護者の同意を得るなどの配慮をしています。
	31	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	・来所時には、家庭や学校、地域での様子を聞くことに努めています。また、欠席が続いた場合には電話等で様子を問い合わせたり、自力通所の際には療育や支援の様子を電話で伝えたりして連携を図っています。
	32	おひさまの行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	・利用者が一堂に会する機会がない、事業所が商店街にある等のため、地域へ働きかける企画の立案が難しい状況にありますが、手始めに地域の行事(祭り等)への参加を検討していきます。 ・3回目の「ファミリコンサート」を開催し、地域へ参加を呼びかけて趣旨の周知を図るとともに交流を深めました。
非常時の対応	33	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	・各種のマニュアルを1冊にまとめて作成・配布するとともに、避難用備品や感染症予防等の用具を備えて、周知を図っています。
	34	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	・昨年度に比べて防災訓練(地震発生に伴う火災の発生)の回数を増やし(2ヶ月ごとに)、職員が迅速に動けるよう対応したり、合い言葉「お・か・し・も・ち」を掲示して利用者が安心感をもてるよう配慮しました。
	35	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	・今年度は未実施となりましたが、次年度は研修計画に設けます。
	36	事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	・利用開始時など、適宜確認をしています。
	37	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	・「保護者アンケート」に記述欄を設け、個別支援計画に記述しています。
	38	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	・「ヒヤリハット報告ファイル」を作成、回覧して常時職員で共有できるよう配慮しています。
	39	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	・対象となる場合がなかったため、記載の必要はありませんでした。今後身体拘束の対応策を検討していきます。
	40	将来を見通し、保護者の同意のもと自力通所の子どもの来所時や退所時に保護者と連絡を取っているか	・自力通所の来所時や帰宅時には、毎回連絡を取っています。なお、自力通所での公共交通機関利用の際には様々な判断と選択の機会があり、非常時の対応策にも役立っています。
満足度	41	利用者は、おひさまへの通所や支援に満足しているか。	・利用者の多くから「療育や支援の成果を実感し、指導員の対応や個別の療育、小集団活動(余暇活動)を楽しみに、安心して通所している」との評価を受けました。今後も、一層の自己肯定感、自己有用感を育む療育や支援に配慮していきます。